

大西選手 (CMSC青森) モントレーを制す!

'89全日本ラリー選手権 第7戦・モントレー

ことしの全日本ラリー選手権シリーズは、予想以上の大混戦となっている。第7戦終了までで、ギャラン4勝、ブルーバード1勝、レガシィ1勝だが、ドライバーズ・ポイントでは激しい争いが続いている。CMSCメンバーでは、大西康弘選手がシリーズポイント4位につけている。

今シーズンを闘うギャランVR-4 RSには、メーカーオプションのクロスミッション搭載車が多い。全日本戦の上位入賞車は、ほとんどがクロスミッション仕様だ。しかし、フルチェンジしたセリカGT-FOURにもクロスミッション車が用意されており、今後はさらに激しい闘いが予想される。

さて、第7戦・モントレー'89を振り返ってみよう。9月16日、17日に行われた同ラリーは、12カ所のSSが設定されていた。前半の闘いは、桜井幸彦、西尾雄次郎、大西康弘といったギャラン勢と、ブルーバードの綾部美津雄などが先頭グループを形成した。

中盤のSS6、SS7では、これにブルーバードの神岡政夫、ギャランの大嶋治夫、レガシィの松本誠な



ども加わり、接戦を展開、終盤の興味は7台ほどに絞られた。

しかし、優勝候補筆頭の桜井ギャランは7CP以降にリタイアし、レガシィ勢、ブルーバード勢もマイナートラブルを抱えて伸び悩み。結局、CMSC青森のエース、大西康弘/村上一平組のギャランが最後のSS12でもベストの走りを見せ優勝した。CMSC群馬の塩野谷浩光/小林信章組はCクラス16位だった。また、綾部美津雄/森哲也組のブルーバードは再車検で失格となり、今シーズンのポイントを剝奪されてしまった。改めて、フェアな姿勢で競技に臨まなければならないことが示されたと言ってもいいだろう。



モントレーを最後にインドネシアへ転動となる村上ナビ佑へ最高の贈物をした大西選手

Cクラスチャンピオン桜井に決定。激戦に終止符

激しいチャンピオン争いを展開した'89全日本ラリー選手権シリーズは、11月「ひえつき」で今シーズンのスケジュールを終了した。注目のCクラス・チャンピオンは桜井幸彦 (ギャランVR-4) に決定、2位の神岡政夫に97ポイント (有効得点) の差をつける圧勝だった。

全日本戦は、全10戦の得点のうち有効得点として認められるのは5戦のみ。従って、優勝回数、上位入賞回数の合計が多いエントラントがチャンピオン争いを展開する。今シーズンは終盤までCクラスのチャンピオン争いもつれ込んだが、ブルーバード勢のエース、綾部美津雄が車両規定違反で失格となった第7戦以降はギャラン勢の争いとなり、神岡の追撃も及ばなかった。



順位	ポイント	ドライバー	車両
1	390	桜井幸彦	ギャランVR-4
2	293	神岡政夫	ブルーバード
3	245	西尾雄次郎	ギャランVR-4
4	202	大西康弘	ギャランVR-4
5	201	山内伸弥	ギャランVR-4
6	200	藤田哲也	ギャランVR-4

CMSCメンバー、全日本ダートラで活躍中!

全日本ダートトライアル 選手権第4・5戦

全日本ダートトライアル選手権・AIIIクラスでは三菱ギャランVR-4が快進撃を続けている。強力なライバルは多いが、いまのところ5連勝中だ。

ここで、キラリと光るのがCMSCメンバーの活躍。CMSC岐阜の柳田正文選手がベテランらしい味のある走りを見せてポイントを取っているほか、CMSC山形の砂塚明男選手、CMSC群馬の荒井信介選手なども善戦中。ことしのダートラAIIIクラスはCMSCギャランに注目が集まっている。

'89全日本ダートトライアル選手権シリーズ第4戦は、オートスポーツランド砂川。連日の猛暑が続く北海道で行われた。コースレイアウトはストレート主体の豪快なもので、第3戦・田沢湖のアップダウンに豊かな「スキー場コース」とは打って変わったコース。ここで素晴らしい走りを見せてくれたのは柳田選手だった。WRCヨーロッパラウンドのSSを思わせる高速コースでクラス優勝、振るわなかった第3戦のうっぶんを晴らした。

AIIIクラス3位は、第3戦で2位だった砂塚選手。1本目は同着3位のタイムだったが、2本目にはコンマ8秒縮めて3位を確保した。群馬の荒井選手も健闘して7位、地元・北海道は帯広の青沼達也選手は17位に入った。AIIIクラス33台のエントリーのうちほとんどがギャランだった。

続く第5戦は三重県の鈴鹿サーキット。昨年ほどではないが、今回も雨中の決戦だった。そして、ここでも柳田選手は抜群のテクニックを見せてくれた。第4戦優勝の勢いもあって、見事に今シーズン3勝目をあげる。第4戦で3位だった砂塚選手はややタイムが伸びずクラス7位、CMSC群馬の荒井信介選手は15位、CMSC香川の菅野仁司選手は30位だった。

いよいよ終盤戦に入った全日本ダートラ。第5戦までのAIIIクラス、ポイントリーダーは柳田選手。63点はタイトツのトップだ。2位は39点で砂塚選手。荒井選手は8位につけている。CMSCメンバーがAIIIクラスの優勝を争っているというのは、実に頼もしい限りだ。荒井選手は群馬三菱自動車販売でCMSC事務局の仕事を手かげながらのダートラ出場だが、メンバーをグイグイと引っ張って頑張っている。

全日本シリーズに全戦出場というのは難しいことだが、各地のCMSCでは「地元で全日本戦が来たときは必ず出る」というメンバーも多い。

とにかく、全日本戦の上位ドライバーの走りや研究したり、全日本戦の緊張を味わったり、CMSCメンバーにとっては有意義なダートラである。今シーズンもまだ闘いは残されており、終盤戦にはより多くのCMSCメンバーの出場を期待したい。



▲第4戦、5戦ともAIIIクラス優勝の柳田選手（岐阜）



▲第5戦・鈴鹿での砂塚ギャラン



▲砂塚選手（山形）は第4戦3位、第5戦7位と健闘



▲荒井選手（群馬）の鈴鹿遠征は15位



▲青沼選手（帯広）は地元の第4戦に参加し17位

NHKテレビ、新聞で有名になった CMSC 帯広

北海道ジュニアシリーズ第6戦 第5回CMSC帯広 コルトダートトライアル

北海道ジュニアシリーズ第6戦として、「第5回CMSC帯広コルトダートトライアル」が8月20日に士幌町下居辺のイーストジャパン・オフロードスタジアムで行われた。前日までは台風の影響で雨が降り続き、コース整備には大変な苦勞をさせられたが、その甲斐あってか、当日は最高の天気、絶好のトライアル日和りとなった。

競技の方は各クラスともレベルの高い戦いとなり、とくにAIIIクラスはギャランVSレガシィに注目が集まった。1トライ目、優勝候補筆頭の長谷川ギャランはパイロン3本を蹴散らし、トップをジュニアシリーズ・ポイントリーダーの片山ギャランに譲る。続く2トライ目は、まずレガシィがベストタイムを更新し、ギャラン勢がこれを追うかたちになった。長谷川ギャランはあっさりレガシィをかかわしたかに見えたが、再び、パイロンタッチ。井馬、伊吹の両ギャランもわずかにおよびず、レガシィ優勝か!?!と思われた。

しかし、最終ゼッケンの片山ギャランはクロスミッションの意地を見せて2トライ目もベストタイム。見事にクラス優勝を奪った。

なお、今回のダートラは前日にNHKテレビで紹介されたほか、当日の結果は地元新聞に写真入りで掲載され、われわれも大満足だった。

(CMSC帯広 青沼達也)



▲AIIIクラス優勝の片山宗浩選手、ギャラン勢の意地を見せた豪快な走りだった。



▲パイロンタッチがなければクラス2位だったのに……惜しかった長谷川光弘選手



▲AIIIクラス3位、三菱車2位は井馬隆光選手

雨と泥のなか、初主催のダートトライアル

CMSC仙台 ダートトライアル

CMSC仙台初めてのダートトライアルは、台風による雨と風のまっただなか、全員がビショビショになりながら行われました。

8月6日の朝、集合したのは55台とまずまず。しかし、三菱自工から木全氏の応援、CMSC福島からは菅野氏のお手伝いと、われわれにとっては非常に心強いサポートがあり、いよいよ競技開始!

前日にコース設定していたものの、豪雨のために急きょコース変更を行ったりしたが、1トライ目はほとんどの参加者がミスコースなくクリア。でも、2トライ目はさらに強くなる雨足の中で行われ、川のようになったコースでスタックするエントラントが続出でした。

まさに、参加者もオフィシャルもビチャビチャになりながらの、文字通りのダートトライアル。しかし、戦い終わって表彰式で賞品を手にした人たちは、感激もひとしおといった様子。CMSC仙台のオフィシャルはというと「来年はジムカーナでガンバろう!」と決意したのです。

参加してくれた皆さんと、オフィシャルに熱い拍手を送ります。「おつかれさまでした~」

(CMSC仙台 初田昌子)



▲ドジャ降り雨のなかでドロドロのダートトラック。クするクルマも多かった。

▼それでも勝つのは気持ちがいい! こちらはチャンピオンシャワーの雨



▲三菱自工から木全氏、CMSC福島からは菅野氏がそれぞれ応援に駆けつけて下さった。

5年ぶりに主催のラリーは好天に恵まれ大盛況

JAF中国四国地方 選手権第4戦 '89CMSCダイヤスターラリー



中国・四国地方選手権ラリー第4戦として、CMSC香川主催の「'89CMSCダイヤスターラリー」が開催された。一時は年間2戦のラリーを開催していたが、車両規定の変更で開催を見合わせていたため、CMSC香川としては5年ぶりのラリーとなった。

参加台数はAクラス4台、Bクラス22台、Cクラス13台の合計39台、このうち、三菱車はギャラン8台、ミラージュ4台だった。コースは香川県内の約200km。開催日が夏休みの最中(8月19、20日)ということもあって、アットホームなムードでラリーを行うことができた。

また、コース設定の方では、2ステージのうち6カ所のSSを地元の協力を得て設定することができたほか、6カ所の申告チェックにより、ドライバーにもナビゲーターにも満足してもらえる内容になった。

当日は天候にも恵まれ、各エントラントは思う存分にターマックとダートを改めていた。とくに、SSではハッスルブレーも見られ、ラリーを盛り上げてくれた。結果は河野夫妻組のギャランがSSでのマージンを生かしてCクラス優勝。Cクラスは入賞6位までのうち5台がギャランだった。

Bクラスでは足立/小早川組ミラージュが健闘したが、惜しくもトップと14ポイント差、2位とは3ポイント差で3位となった。Aクラスは今川/和田組のマーチが優勝した。リタイアは6台だった。

CMSC香川としては久々のラリー開催ということで、オフィシャル面にも心配もあったが、地元他クラブやOBの協力もあり、無事にイベントを終える



ことができた。後援して下さった香川三菱、讃岐三菱、三菱自工、ラリーアート各社さんも含め、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

(CMSC香川 平尾高王)



'89CMSCチャレンジカップ、いよいよ終盤戦

今シーズンのチャレンジカップは、前半を終了した時点でクラブ別獲得ポイントは、福島がダントツでトップを走り、帯広、山形と続いている。しかし、山形、青森その他の集計が遅れているクラブがあるので判断のしにくいところである。

ラリー・ナビゲーター部門では福島の佐藤忠宣が頑張り、大量得点を獲得し他を圧倒している。

スラローム部門はポイントが均衡しているうえ、イベント数も多く、後半の頑張り次第でまだまだなんともいえないところである。レース部門では山形

の小川日出生がほぼチャンプを決定している。他のクラブ員も後半戦に向けてさらに頑張ってもらいたい。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
帯広	355	310			665
札幌	33	0			33
青森	0	0			0
山形	404	0			404
仙台	6	0			6
福島	470	423			893
栃木	34	39			73
群馬	225	0			225
埼玉	51	72			123
千葉	0	0			0
岐阜	112	107			219
島根	157	0			157
香川	335	248			583

●ラリー・ドライバー部門

渡辺俊昭	山形	86
小山和邦	埼玉	76
佐々木伸之	札幌	24
佐藤一彦	埼玉	21
菅野茂	福島	16
長沢太郎	埼玉	12
塩野谷浩光	群馬	12
野村芳久	札幌	12
粥川秀昭	岐阜	8
奥山善宏	札幌	6

●ラリー・ナビゲーター部門

佐藤忠宣	福島	242
蔵本隆充	埼玉	76
瀬々徹	埼玉	21
若林和昭	群馬	20
中村洋次	帯広	11
伊藤順子	岐阜	8
横山浩	札幌	6
巻口実	札幌	3
寺川昇	埼玉	1
安藤朋司	岐阜	1

●スラローム部門

青沼達也	帯広	264
高橋正喜	福島	240
須田行雄	福島	231
高竹優之	香川	214
榎田正文	岐阜	212
荒井信介	群馬	152
塚原勇	福島	134
井馬隆光	帯広	126
伊吹浩明	帯広	124
白川修	香川	98

●レース部門

小川日出生	山形	164
郡司義光	栃木	65
竹田恒生	山形	36
東江誠	山形	34
川口法行	栃木	21
山口茂	栃木	17
蒲原芽里	埼玉	10
木村政義	山形	6
相沢いく	埼玉	2
佐藤政一	仙台	2

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A= ラリー……全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ
スラローム……全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMRCシリーズ

レース……全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ

B= それ以外の競技会

※編集部の不手原から、集計ができていないクラブがあることをお詫びいたします。(編集部)
↑リタイアには予選不通過も含む